

表一14 公立中学校教育機器保有状況

	学校数	16ミリ 映写機		8ミリ 映写機		T V (白黒)		T V (カラー)	
昭和46年	299校	152台		273台		566台		0台	
昭和49年	268	145		245		365		152	
		テープ式 録音機		シート式 録音機		OHP		VTR	
昭和46年	1,248台	705台		614台		67台		64台	
昭和49年	979	705		1,420		114		142	

(備考) 「総務課調査」による。

とが重要な課題となろう。
 中学校の施設・設備についても、小
 学校の場合と同様、今後引き続きそ
 の充実整備を進める必要がある。

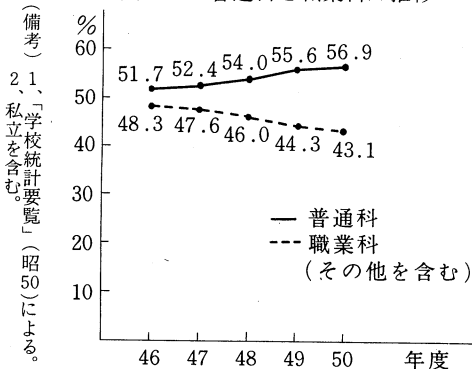
四、高等学校教育

(1) 上昇する高等学校進学率

本県高等学校の進学率は、学校基本
 調査報告書によれば、昭和五十年
 度において八四・二%となっている。

これは全国平均より低位にあるが、
 毎年高等学校の低収容率地域に
 対して公立高等学校の学級増などの
 措置をこ

図一12 普通科と職業科の推移



(備考) 1. 「学校統計要覧」(昭50)による。
 2. 私立を含む。

間の進学率の伸びの割合は二・三%
 全国平均の一・七%を大きく上回っ
 ている。
 昭和五十年の高等学校全日制・定
 時制の生徒総数は、九万三千五百二
 十名(私立を含む)で、昭和四十九年
 とほぼ同数となっている。
 今後とも進学率の地域間の均衡化を
 積極的に図っていく必要がある。
 (2) 増大する普通科志望志向
 昭和四十六年度から昭和五十年
 度ま

での生徒総数に対する普通科・職業科
 (その他を含む)の生徒数の比率の推
 移は図一12のとおりである。

これによると、普通科の占める比率
 は年々増大し、職業科の占める比率は
 減少してきている。
 昭和五十年における高等学校在学

表一15 年度別・学科別生徒数

(単位：人)

年度	普通科		農業科		工業科		商業科	
	男	女	男	女	男	女	男	女
47	19,932	29,805	6,288	1,220	14,939	1,861	5,993	6,450
48	20,548	29,984	5,630	1,300	14,229	1,865	5,943	6,168
49	21,673	30,330	5,082	1,270	13,836	1,825	5,774	6,073
50	22,489	30,720	4,755	1,228	13,671	1,781	5,549	5,929

(備考) 1. 「学校統計要覧」(昭50)による。
 2. 私立を含む。

者(私立を含む)の男女構成は、男子
 が四万七千五百二十八名で、全体に占
 める割合は五〇・八%である。
 普通科については、逆に女子の占め
 る割合が五七・七%となっている。
 今後とも、普通科と職業科との適正
 な比率の検討と適正な学科の配置を
 図る必要がある。

(3) 収容率の高い公立高等学校
 全国の公立と私立の生徒収容状況は
 七対三の比となっている(表一16)
 本県の場合は、表一17が示すように、

表一17 本県の生徒収容状況

(単位：%)

年度	公立	私立
46	82.4	17.6
47	81.2	18.8
48	81.0	19.0
49	80.9	19.1
50	81.4	18.6

(備考) 「学校基本調査」(昭46~昭50)による。

表一16 全国の生徒収容状況

(単位：%)

年度	国立	公立	私立
46	0.3	68.9	30.8
47	0.2	68.7	31.1
48	0.3	69.0	30.7
49	0.3	69.2	30.5
50	0.2	69.6	30.2

(備考) 学校基本調査(昭46~昭50)による。

ほぼ八対二の比となっている。
 すなわち、本県では公立への依存度
 が特に高いということである。
 図一13が示すとおり、公立における
 高等学校本科課程別収容率は、普通科
 四八・七%、工業科二・二%、商業科